

(10) 九 州



九州地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

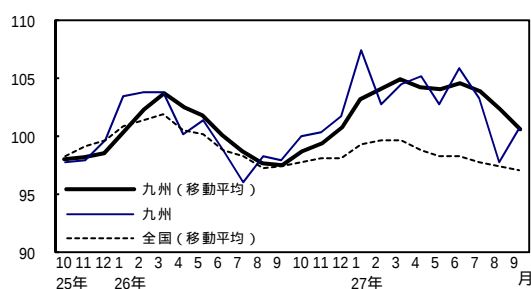
	前回 (平成 27 年 8 月)	今回 (平成 27 年 11 月)	
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	<u>おおむね横ばい</u>	↓
住宅建設	大幅に増加	増加	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、輸送機械は北米向けは堅調だったものの、自動車の一部車種で一時的な生産停止がみられ、減少した。電子部品・デバイス、スマートフォン向けで半導体集積回路(ロジック)が不調だったこともあり、減少した。はん用・生産用・業務用機械は、6月の生産増に対する反動減がみられ、半導体製造装置、反応用機器等が減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	24.5	▲5.9	▲6.2	0.3	▲11.9	6.5
電子部品・デバイス	12.3	0.5	▲8.4	▲1.3	1.4	▲2.5
はん用・生産用・業務用機械	11.2	9.9	▲5.9	▲18.5	▲8.7	8.3
食料品	9.6	▲0.5	2.6	5.4	▲5.0	1.8
化学・石油石炭製品	8.3	6.8	▲5.6	▲3.6	▲4.2	6.8
鉱工業	100.0	▲0.3	▲3.8	▲2.5	▲5.2	3.0

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

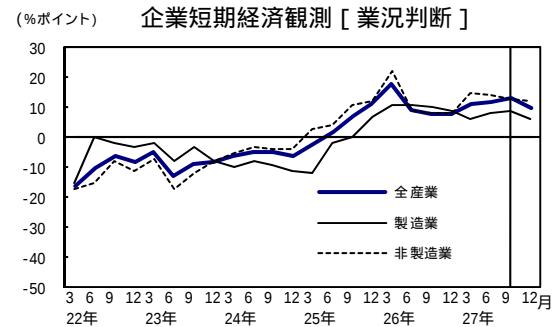
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

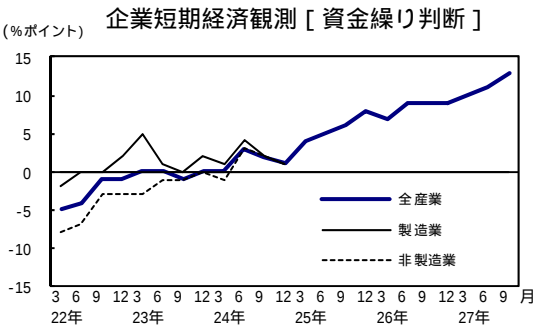
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

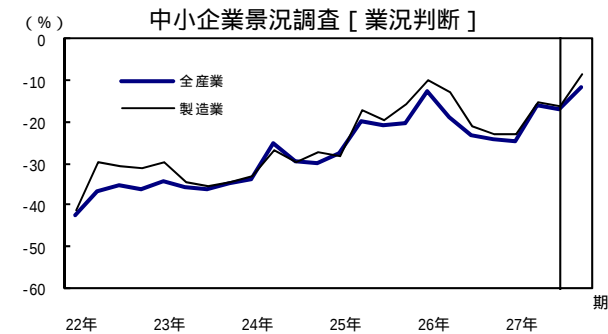
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から
製造業・非製造業は非公表となっている。

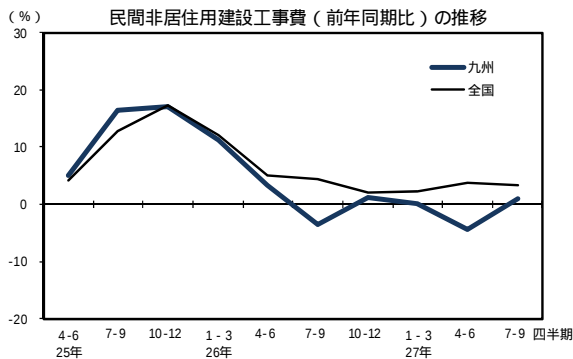


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「最低賃金やパート時給単価などは上昇しているが、物価は上昇しておらず、商品単価に連動する物流単価も上昇していない。結果的に人件費コストのみが上がり経営を圧迫している(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度値
全産業	11.9	29.3(29.6)
製造業	12.8	71.1(53.0)
非製造業	11.1	▲5.9(5.1)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.2%増、8月は同1.3%増、9月は同0.3%増となった。

百貨店・スーパー販売額

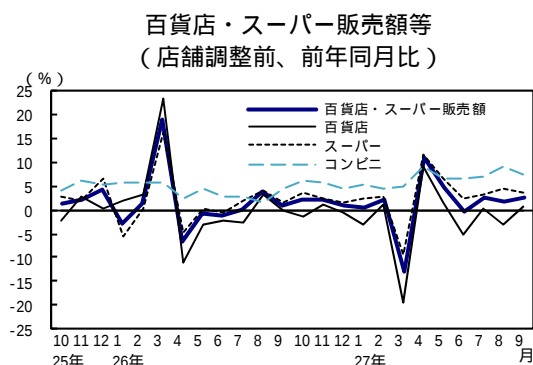
百貨店は、7月は、クリアランスセール開始等により衣料品等に動きがみられた他、化粧品や高額品等の動きが良く、前年を上回った。8月は、高額品等の動きが良かったものの、衣料品等の動きが鈍く、前年を下回った。9月は、飲食料品や高額品等の動きが良く、前年を上回った。

スーパーは、飲食料品や家庭用品等の動きが良く、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、49.8となり前月より1.2ポイント上昇した。

「地方の商店街では、中国人観光客の爆買いによる売上は期待できない。高齢者の客が多い商店街では、客は所得の増加が見込めず、生活必需品を買うのが精一杯である (商店街)」など、「変わらない」とする回答が増加した。



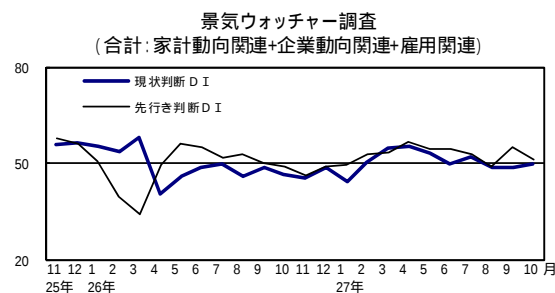
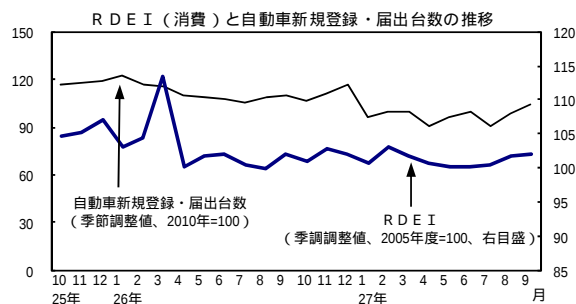
	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.1	0.2	1.3	0.3
百貨店・スーパー(*2)	2.3	2.5	1.7	2.6
百貨店(*2)	▲0.7	0.4	▲3.2	0.5
スーパー(*2)	3.7	3.3	4.2	3.7
コンビニ(*2)	7.8	6.9	9.0	7.4
乗用車(*3)	▲9.7	▲13.4	▲9.1	▲6.6
(季節調整値)(*3)	2.5	▲9.0	9.1	6.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

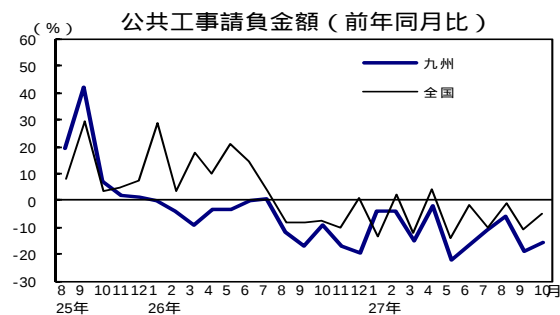
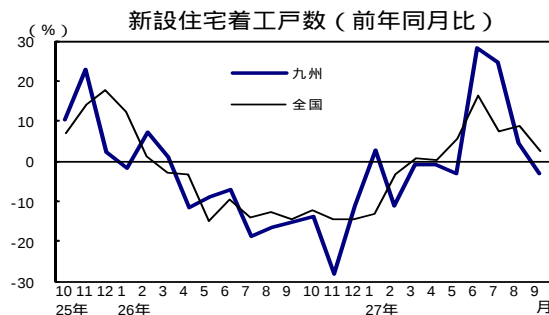
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

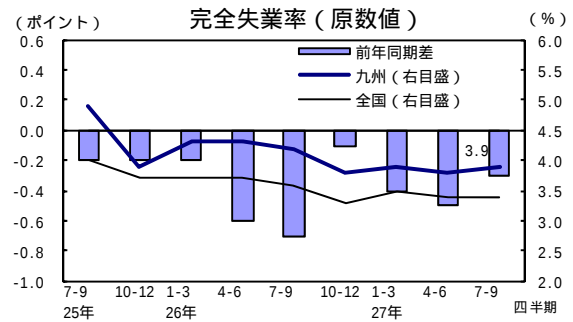
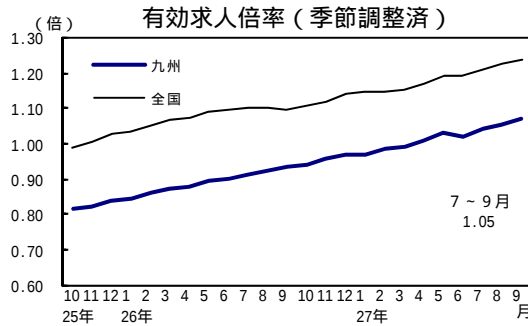


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

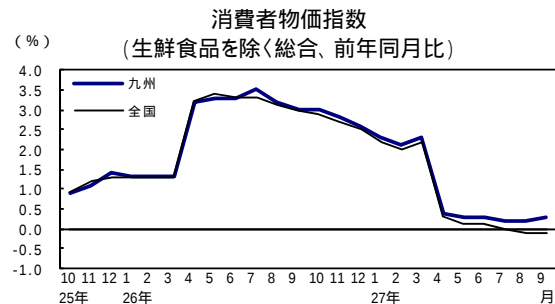
「求人数は減少傾向にあり、求職者数も減少している。労働環境は安定傾向にあるが、賃金の上昇傾向は頭打ち感がある（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数	162	175	184	158	52
(前年比)	▲1.8	2.9	▲1.6	17.0	▲24.6
負債総額	376	246	257	216	82
(前年比)	36.6	▲23.5	▲23.4	17.3	▲53.2



○ 景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・都市部と異なり地方では10月の国慶節のインバウンド需要もなく、非常に厳しい1か月であった（百貨店）。

<先行き>

- ・賃貸物件の稼働率が横ばいで推移している（不動産業）。

